

バックステージ業務の存在の可視化に関する看護教員の意識

○藤田美穂（千里金蘭大学看護学部）

I. はじめに

看護教員の業務には、講義や実習指導など学生に直接かかわる業務と、学生と間接的にかかわる業務とがある。本研究ではこの2類型を、演劇の比喩(メタファ)によりイメージ化し、前者は学生をオーディエンスとしてステージ上でパフォーマンスする業務(以下、フロントステージ業務)、後者はそのパフォーマンス遂行を背後から支える業務(以下、バックステージ業務)と定義した。この区分で見ると、先行研究の大多数は看護教員のフロントステージ業務の実態や影響を調べたもので、バックステージ業務の調査はほとんど着手されていない。バックステージ業務は煩雑で、他者から見えにくく、看護教員以外の者に知られにくいだけに、その存在を理解することは看護教員の就業にとって重要になると考えられる。そこで本報告では、バックステージ業務に関する看護教員の経験や認識を調べた調査結果のうち、特にその存在の可視化に焦点化して明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 調査協力者

看護専門学校での教育経験が2年目以上の専任教員とした。職位や担当している教育課程は問わず機縁法で調査を進めた。

2. データ収集方法

バックステージ業務の遂行状況、経験、認識などを問う1対1の半構造的面接を1回実施した。承諾を得てインタビュー内容を録音した。聞き取りは60～100分、調査時期は2019年12月から2020年6月であった。

3. データ分析方法

バックステージ業務の可視化に関する語りをすべて取り出し、意味を解釈し、類型化した。

4. 倫理的配慮

所属機関の研究倫理委員会の承認を得た実施計画を厳守して調査した(滋慶医療科学大学院大学第2019-12号)。

III. 結果

本調査では11名から協力を得られたが、そのうちバックステージ業務の存在の可視化に関して語ったのは5名であった。該当する語りをすべて抜き出し、似たことを示している語り同士を集めて類型化した。その結果、バックステージ業務が存在することを「他者には見せなかった」というもの、次に、その存在を「見せないという手本を模倣している」としていたもの、最後に、バックステージ業務があることを「見せるべき相手に見せている」というものに分けられた。

IV. 考察

バックステージ業務の存在を「見せていない」、「見せないという手本を模倣している」、「見せている」というのは、この順に3段階の変化をしていると考えられる。その順序を生成させるものには、何らかの要因があると考えられた。

他者から見えにくいバックステージ業務こそ、看護教員自らが可視化を意識し周囲に発信していくことが重要である。そうすることで看護界における相互理解が進み、教員同士、あるいは病院関係者との連携を促すことに繋がっていくと考えられる。